

古賀市子ども・子育て会議 議事録（平成 26 年度第 5 回）

開催日時		平成 27 年 1 月 21 日（水）19：00～20:20		
開催場所		サンコスモ古賀 201 研修室	公開の可否	可
事務局		保健福祉部子育て支援課	傍聴者数	1 人
公開しなかった理由				
出席者	委 員	田中敏明会長 石丸貴子委員、梯裕子委員、桑野嘉津子委員、下川由貴子委員、 末次威生委員、薄秀治委員、高橋千里委員、中田拓弥委員、 原口一夫委員、松尾美恵子委員、大和郁雄委員		
	事務局	中村市長、中野保健福祉部長、水野子育て支援課長、中村恵保育所長、 澤木家庭支援係長、松岡こども係長、竹下こども係係員、馬渡こども係 係員、瀬戸こども係係員		
	その他			
議題等		1. 子ども・子育て支援事業計画案の修正の説明 ①第 3 章 古賀市の子どもや子育てを取り巻く課題 ②第 4 章 計画の基本的な考え方 ③第 5 章 施策の具体的な取り組み ④第 6 章 量の見込みと確保方策 ⑤資料編		
配布資料		・次第 ・古賀市子ども・子育て支援事業計画（素案） ・部会での主なご意見 ・古賀市子ども・子育て支援事業計画（素案）に関するご意見等につい て		

古賀市子ども・子育て会議（平成 26 年度第 5 回）（会議概要）

○次第

- 1 会長あいさつ
- 2 古賀市あいさつ
- 3 議事

○子ども・子育て支援事業計画案の修正の説明

修正箇所

- ・第 3 章 古賀市の子どもや子育てを取り巻く課題
- ・第 4 章 計画の基本的な考え方
- ・第 5 章 施策の具体的な取り組み
- ・第 6 章 量の見込みと確保方策
- ・資料編

（事務局）

- ・追加資料（部会での意見）に目を通していただいた後、修正箇所の説明を行う。
- ・資料に基づき説明

（会長）

- ・ご質問があればお願いします。

（委員）

- ・基本目標 2 の「自信を持って子育てができる環境づくり」について、「自信を持って子育てをなさい」と言われている気がするが、自信がなくて子育てをしていることもあると思うのできつく感じるので、「いきいきと子育てをしている人への支援」くらいのほうがいいと思う。
- ・43 ページの 10 番「居場所づくり事業」で、「18 歳未満の子どもの居場所を提供する」とあるが、単に「居場所を提供する」、「子ども同士の交流で社会性が育まれる」だけではなく、安心していられる場所という意味合いは、この中にあるのか。
- ・48 ページの 2 番「乳幼児親子居場所提供事業」の目標・方向性に「イベント等の検討・充実を図る」とあるが、「イベント」という表現は、こちらから提供しなければいけない事業のように感じられるので、「取り組みに入れることを位置付ける」や「お母さん方の交流を支援する」など、別の表現のほうがいいと思う。
- ・52 ページの 4 番のファミリー・サポート・センター事業にたくさんの人が関わっていて、

子育てを支援することは大事だと思う人が増えることで地域の子育て力が上がってきていると実感しているので、文末に「そして、地域の子育て力の向上を目指す」という1文を加えてはどうかと思う。

- ・FAXで質問させていただいたが、この施策の中に「遊び」という言葉が、56 ページの8 番「公園整備事業」の「子どもたちが安全・安心に遊べる公園施設」と、「でんでんむし」で親子で交流して遊びましょうというところだけである。体験や自然体験の中に含まれるという解釈もあると思うが、提供する体験と子どもたちが自ら遊び出す遊びは質が違っていると感じるので、施策の中に「遊び」を入れてはどうかと思う。

(委員)

- ・関連して、43 ページの10 番「居場所づくり事業」で、古賀市内で児童館と呼ばれるのは米多比児童館と千鳥のCOSMOXだが、市内全域からこの2カ所に行くとなると、小学生は校区外に自分だけでは行くことができないし、歩いて行ける距離にない子どももいる。「居場所づくり」として、児童館に代わる事業や居場所のイメージはあるのかを教えていただきたい。

(会長)

- ・まず、市に、居場所づくりの施策について考えがあるかどうかを質問したい。

(事務局)

- ・43 ページの10 番「居場所づくり事業」は中学校区を基本に考えているので、北中校区は千鳥のCOSMOX、東中校区は米多比児童館である。古賀中校区は、今はサンコスモを利用させていただくということで、現在、いい方法を検討しながら施策を進めているところである。

(会長)

- ・委員は、小学校区まで増やしていくことは求めないのか。

(委員)

- ・もちろん求めたいと思う。

(事務局)

- ・居場所の数が少ないのは承知しているが、まずは中学校区から整えていきたい。
- ・基本目標2に「自信を持って」と書かせていただいたが、他に良い表現がないかご意見を頂きたい。
- ・56 ページの子どもの遊びについては、「遊び」は施策として薄く、事業内容では表せていない。これは今ある事業の目標として挙げさせていただいているので、「遊び」については意見として伺いして、反映できるところがあれば反映したい。

(事務局)

- ・ 48 ページの 2 番の「イベント」という文言は、サービス提供型から脱却する方向で考えているので、検討させていただきたい。
- ・ 52 ページの「ファミリー・サポート・センター事業」については、おっしゃることはもっともで、支援は 1 つの手段であり、最終的な目標は地域の子育て力の向上なので、文言を追加する方向で検討したい。

(会長)

- ・ いくつか文言の問題がある。まず、「自信を持って子育てをする」に代わる表現はあるか。

(委員)

- ・ 追加資料②の就学前部会での主な意見に、「安心」「楽しく育てる」「喜び」「いきいき」「充実した」というキーワードがあるので、「いきいきと子育てをするような支援」というのはいかがか。

(委員)

- ・ 自信があり過ぎて子育てをするのは逆に問題があると思うが、迷いつつも、ある程度親として自分に自信を持って子育てをしていくことは大事だと思う。この文章を出したときに、どういう捉えられ方をされるかも考えた表現が大事だと思う。部会でいろいろな言葉が出たが、これというものがなかったので、もう一度皆さんで検討していただけたらと思う。

(会長)

- ・ 子育てをするときに、何かが支えとなって、不安になってもどこかに安心感があって、最終的に喜びもあるので、「安心」と「喜び」という言葉はいいと思うが、どこかに使われているか。

(事務局)

- ・ 基本目標 3 がハード面での安心についての表現で、基本目標 2 は、「楽しむ」「いきいき」など、ソフト面についての表現と考えている。

(委員)

- ・ 基本目標 2 を見たときに、内容を伴って、充実できれば、「自信を持って子育てできる環境づくり」という目標は素晴らしいと思ったので、ミックスして「自信を持っていきいきと子育てできる環境づくり」というのはいかがか。

(会長)

- ・「自信を持って」は目指す姿だが、なかなか自信を持てないのが事実なので、自信が持てなくても「喜び」や「いきいき」という姿もいいと思う。価値観や感受性の問題もあるので、どちらを取るか、多数決では決まらないと思う。

(委員)

- ・「自信」とは何だろうと思う。

(会長)

- ・「自信」は、自分はきちんとできるという思いと、ある程度それに向かって努力した裏付けが生むものだと思う。

(委員)

- ・「そのままの子育てで大丈夫ですよ」という何かがないと自信につながらない。

(会長)

- ・確かに、自信はなかなか持てるはずがないという意識があるが、いきいきと子育てはできる。いきいき子育てできる人は自信がある人だと思うので、どちらを取ってもいいと思うが、いかがか。

(委員)

- ・そうすると、「保護者の子育て力の向上において」という文言との結びつきはあると思うので、柔軟くしたいかどうかである。

(会長)

- ・「自信」は、個人差があるので難しい。

(事務局)

- ・ご意見を参考に、検討させていただく。

(会長)

- ・43 ページの10 番の「安心して」についてはいかがか。

(事務局)

- ・事業内容に「安心」という言葉が入ってもいいと思うので、青少年育成課と相談したい。

(会長)

- ・48 ページの2 番の「イベント」についてはいかがか。

(事務局)

- ・ご意見を踏まえて、検討させていただく。

(会長)

- ・要するに、そこが集まりやすい場で、環境・内容がより充実しているという意味でいいと思う。

(委員)

- ・37 ページの基本目標1 の2 番目の「豊かな人間性を育むための支援」で、「生きる力」を「社会性や協調性等を身につけ」という具体的に踏み込んだ文章に変更しているが、その意図を聞かせていただきたい。

(事務局)

- ・「生きる力」を基本理念に挙げたので、基本目標、基本施策からは省いた。また、36 ページの「生きる力」の定義だが、もともと「生きる力の育成」に「豊かな人間性」の部分が入っていたので、基本施策を「生きる力の育成」とすると、体力・健康も含んでいると取られるので、「豊かな人間性」として、1 番目の施策に「健康・体力」、2 番目に「豊かな人間性」、3 番目に「確かな学力」を入れる作りにした。

(委員)

- ・一般の子どもは、教育や体験を通して社会性や協調性を身につけると思うが、障がい児の中には、障がい特性のために社会性や協調性を身につけるのが難しい子どももいると感じたので、気になって質問させていただいた。

(事務局)

- ・ごもっともなので、「社会性や協調性等」の文言を検討させていただく。

(会長)

- ・この辺の捉え方も難しく、障がい児の中には、社会性や協調性を身につけるのが難しい子どももいるので「社会性や協調性等」を外すと、障がい児は社会性や協調性が育たないという見方につながりかねない。一般の子どもに比べると、育ちは遅いかもしれないし小さいかもしれないけれど、それなりに育っているんで、その子が持っているものを育ててあげたいという意図で「社会性や協調性等」が出てきているのであれば納得できる。しかし、ぱっと見たときに、そういう子どもたちのことを考えずにここに挙げているのではないかと

捉えられなくもないので、ご検討いただきたい。

(事務局)

- ・「社会性や協調性等」もだが、「身につけ」の部分もそうではないかと思う。身につける努力はどなたもされているし、支援されていると思うので、「身につけ」という文言を検討したい。

(委員)

- ・障がいがある子どもたちも「さまざまな教育や体験等を通して」育っていくので、この文言でいいと思う。

(委員)

- ・障がいを持っている子どもは、身につける速度は遅いかもしれないが、教育の中で、社会性や協調性を身につけていく。どんな子どもでも社会性や協調性は育っていくと思えるので、それが感じられるような表現ができればいいと思う。

(委員)

- ・48 ページの1 番「育児力向上事業」の事業内容に、「外部講師による」と書かれているが、保育士など、古賀市の人材で講座が実施できると思うので、「外部講師」は省いてもいいのではないかと思う。
- ・49 ページの12 番「ペアレンティングトレーニング事業」に、NPとCSPの2つだけを取り上げて載せている理由をお伺いしたい。

(事務局)

- ・48 ページの1 番の「外部講師による」は、省かせていただく。
- ・49 ページの12 番のNPとCSPは、現在実施していて、今後も実施する予定があるので挙げさせていただいた。

4 その他

(事務局)

- ・部会は、後日、日程調整をさせていただき、パブリックコメント中に開催させていただく。
- ・予算の関係上、次回の部会が最後となるが、要望があれば開催できる。
- ・活発に意見を出していただいて本会議をスムーズに進める目的で部会を開催しているが、部会の傍聴について、ご意見をお願いしたい。

(事務局)

- ・市の意見としては、できるだけ活発なご意見を頂きたいと思っているが、傍聴はしていただいて結構だと考えている。委員の皆さんの意見の出しやすさについて、ご意見を頂きたい。

(会長)

- ・原則、傍聴を認める方向でよろしいか。

(一同異議なし)

(会長)

- ・傍聴を認めることとする。

(閉 会)

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

会 長

署名委員